



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 宮島喜文
編集責任者 坂西 清

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ http://www.jamt.or.jp

P1 新年のご挨拶

P2~P5 説明・相談ができる検査技師育成の育成に向けて 都道府県企画担当者講習会を開催！

P6~P8 日臨技支部学会 各地で開催！（続報）

P8 先駆的臨床検査技術研修会報告 第1回遺伝子・染色体研修会

明けましておめでとうございます。 会員の皆様に新年のご挨拶を申し上げます。

平成26年元旦

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会
会長 宮島 喜文



新春を迎え、会員の皆さまには心からお慶び申し上げます。日頃より、日本臨床衛生検査技師会の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

一昨年の暮れに誕生した安倍政権は日本再興戦略として、デフレからの脱却と日本経済の再生に向けた政策展開により、一部に景気回復への明るい兆しも見えてきました。しかし、その恩恵は全ての国民に届いているとは言えません。また、その中にある「健康寿命延伸産業の育成」の一環として、薬局で行う“簡易な検査を行うサービス”など行き過ぎた規制緩和を助長する動きに対しては賛同できません。本会は臨床検査の価値を高め、正しい臨床検査の普及活動を通じて国民の健康を守ってまいります。

さて、本会は一昨年度に“未来を拓く日臨技”の実現を目指して基本構想を策定し、昨年度は基本計画を立て準備を進めた歳でした。今年はいよいよ3年目に入り、第4次マスタープランの答申を踏まえ、各種事業の展開に入る歳となります。

一時減少した会員数も昨年からは増加に転じ、5万2千人に達する見込みです。しかし、組織率は6割程度と考えられ、更に会員から信頼される学術・職能団体として活動を進め、“会員数6万人達成”を目指してまいります。

また、今年はいくつかの主要課題に取り組まなければならないと考えています。

総務関係では、事業の拡大に伴い、円滑な運営ができるように執行体制を強化し、事務局機能の充実を図るとともに支部・都道府県技師会との緊密な情報交換を図ってまいります。また、設立母体別技師会との連携も強化することが必要です。

学術関係では、平成25年度から始めた先端的

学技術セミナーや先駆的臨床検査技術研修会を充実させ、2016年の世界医学検査学会（IFBLS学会）に向けて、海外との学術交流も活性化させます。ちなみに2年に一度の世界医学検査学会は台湾で本年開催され、発表及び視察のために大きな参加団を構成したいと考えております。支部における研修会なども専門学会と連携して、学術活動の振興に努めていきたいと考えています。

渉外関係では、先駆的チーム医療実践講習会などを通じて、職能教育の充実を図るとともに、検体採取前や検査後の患者様への検査説明が的確にできるような臨床検査技師を育成する講習会を全国で開催します。更に、念願であった微生物等検体採取についても、業務認証の獲得を目指し、厚生労働省や日本医師会など医療団体や、日本病院会など病院団体のご支援をいただき、法制化の実現を図ってまいります。

認定技師制度については、職能団体として使命感の下に、医療の実践に必要な認定技師制度の構築を進めていくべきと考えます。関係学会との協力をいただき、認定センターでも新たな認定技師の誕生を目指し、病理、認知症、臨床化学、救急など専門学会との協議を深めます。

また、昨年10月に厚生労働大臣から中央社会保険医療協議会の専門委員を拝命しました。今回の改訂の重点は急性期から慢性期に移行し、臨床検査関係の増点は厳しい状況にありますが、医療技術職として、また、臨床検査に従事するものとしての立場で現場の声を伝えてまいります。

本年も昨年同様に温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

会員の皆さまの益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

//検査説明・相談ができる検査技師の育成に向けて//

都道府県企画担当者講習会を開催!

平成25年12月6日～8日の3日間、都道府県技師会から各1名の企画担当者を選任の上、「平成25年度検査説明・相談ができる臨床検査技師育成企画担当者講習会」にご参加いただきました。概要をレポートいたします。

この講習を受けた企画担当者が、各都道府県単位で本年度以降、「検査説明・相談ができる検査技師育成講習会」を計画・開催して、3年間で会員の約1割に相当する5000名の講習修了者を目標とするプロジェクトがスタートいたします。（担当執行理事 萩原三千男）

◎講習1日目

厚生労働省医政局医事課松村主査より、「**チーム医療の推進について**」と題してご講演いただきました。

まず「患者や家族にとって、安全で質の高い医療を効率的に提供するためには各医療機関関係職種がその専門性をより発揮でき、チームとして医療を行う体制を整えていく」ことが重要であるとした上で、採血や検査についての説明において、「臨床検査技師との適切な業務分担を導入すること」が医師等の負担を軽減するという医政局長通知（平成19年12月28日付）を改めて紹介されました。

さらに「チーム医療推進会議」のワーキンググループの検討結果でもある臨床検査技師の業務範囲の見直しとして、微生物学的検査等（インフルエンザ等、細菌・真菌検査等、糞便検査等）における検体採取を業務範囲に加える制度の実現を目指していくとされました。



続いて宮島会長から、「**臨床検査技師が検査説明・相談に取り組む意義**」として、検査説明は、多くの検査技師が日常業務の中で行えるようになることが大切であること、私たちの役割は検体採取から検査結果説明までであり、検査だけをしては立場も向上しないこと、講習会の開催は目標ではなく手段であり、検査説明を繰り返し実践することで自己の不足も補い成長できること、その実践フォローアップを技師会あげて行うべきことなどが力説されました。



日本病院会を代表して青梅慶友病院院長の木村先生が、「**臨床検査技師の検査説明・相談に期待するもの**」と題して、「専門分化も大事なことはあるが、技師として広い視野での業務も一層求められる時代背景になった」として、「検査説明・相談という業務を新たに作り出す」ことを病院管理者の立場として大いに歓迎したいとエールを送っていただきました。

さらに（検査）の依頼側へ助言できるようにもなってほしい、患者さんへの検査相談室業務はできればすべての技師が対応できる仕組みを望みたいともされました。



日本看護協会の川本常務理事からは、「**看護実践の基礎となるコミュニケーション能力**」と題して、看護師が行っている接遇方法を教えていただきました。基礎としての身だしなみやマナー言葉使いはいうに及ばず、まずは自分がどう相手に見られるかの自己理解、聞く力と姿勢、説明の前の関係作りなどの重要性が示されました。



受講者はここまでの講義で頭では理解できたものの、冒頭から緊張もほどけず、さらには本音ベースで意見交換する必要があったため、岩手医科大学の諏訪部教授による「**ワークショップ**」に取り組みました。ここではKJ法（川喜多二郎法）を活用しました。

6グループに分かれ、3つのテーマを各2グループがディスカッションし、その後発表しあいました。

- **臨床検査技師による検査説明・相談の必要性は何か？**
- **検査説明を行う（としたら）その問題点は何か？**
- **各都道府県で研修会（講習会）を実施する上での問題点は何か？**



熱心に取り組む受講者

◎講習2日目

前日に引き続き諏訪部教授の進行で「**検査説明の実際**」の講義とロールプレイが行われました。

6つの検査データが前日に渡されて、受講者はこのデータを頭に入れた上で、当日、説明役と患者役が割り振られる形で行われました。

最初にサンプルビデオを見て評価訓練を行ってからロールプレイを行い、そのビデオを再生視聴した上で、よかった点、あえて改善指摘すべき点を指名者が発表しました。説明役・患者役本人の感想や反省も披露されました。

受講者の中で業務として検査説明を行っているのは1名だけでしたが、全体に「医学部生よりうまい」と諏訪部先生からおほめの言葉をいただきました。しかし、実践を重ねると医学部生も格段にうまくなるのだから、おそれず繰り返すことが大切で「検査説明とは臨床検査に関するアートの実践！」という諏訪部先生の見方も紹介されました。



午後からは、(株)C-planの小山社長による「**医療機関における良好なコミュニケーションとクレーム対応**」の講義と実習で、よりよい接遇実践を受講者は体験しました。



その後は「**検査説明・相談の模擬演習**」として、アドバイザーを虎の門病院米山臨床検査部長にお願いし、2つの施設の実践紹介を行いました。

安曇総合病院の内田技師長は、自らがやっている糖尿病教室や人間ドックでの説明風景をビデオで紹介しました。医師との信頼関係の中で任され、患者さんも説明をリラックスして聞き、楽しみにしている様子が示されました。



内田技師長の
検査説明中の
ビデオ放映

続いて京都府立医大の小森技師長が、検査相談室の運営経験を報告した上で、検査報告書に手書きで書き込みをしながら説明するスタイルを模擬披露しました。その際、手元をビデオカメラでアップして会場内に映し出し、患者さんも手書きで補足される検査情報によって理解が深まることができました。



小森技師長の
講義と実演を
受けて、アド
バイスする
米山部長

当夜、自由参加の交流会が行われ、宮島会長も急ぎょ駆けつけて大いに盛り上がったことはいうまでもありません。

◎講習3日目

信州大学の本田教授が「**R-CPC**」と題して、患者さんの病態把握を行うための「**基本的検査**」（血算・生化学・凝固線溶検査などをルーチン約50項目）を改めて重視すべきであり、単独項目の検査結果ではなく、複数の検査を結びつけて解釈を行う信州大学方式を詳細にわたって講義されました。

本田先生は、院内には時系列な緊急患者症例データを入手しやすいのであるから、これを活用すべきこと、臨床検査部の「顧客」を明確に意識してまず臨床医から信頼されること、自らがやっている検査結果が無駄にならず最大限有効活用されるようにコメントを付けることが大切であることを強調されました。



午後からは「**実践から学ぶ**」企画として、本講習会の実務委員でもある国立病院機構千葉医療センターの永井技師長から「**全国共通検査説明書“なるほど・ザ・検査ミニ知識”**」の作成経緯と成果が報告され、同じく実務委員の飯田市立病院の實原科長から長野県で行われた「**検査説明研修会**」の取り組みが報告されました。

研修の方法や研修後のアンケート結果も示され、今回の受講者が企画担当者として今後講習会を開催していく上での大きな参考となりました。



最後に行った総合討論では、都道府県講習会カリキュラム(案)を提示して、質疑応答と意見交換を行いました。受講者自身がどのように取り組むべきか、地域ごとの事情を勘案しながら総合討論に参加し、きわめて熱のこもった内容となりました。

日臨技に対するいくつかの要望も伝えられ、これを受けて検討すべき事項も認識できました。

臨床検査技師が医療関係者や患者さんに対して存在感を示していくためにさけて通れない検査説明・相談という課題は、緒についたばかりですが、日臨技も都道府県技師会と連携し本年度からの育成講習会をサポートしてまいる所存です。

本講習を共同企画いただいた日本臨床検査医学会様に深く感謝申し上げます。

講習会に参加して

受講者の中から2名のかたにお願いして、感想を寄せいただきました。

神奈川県代表 三浦芳典 (北里大学病院 臨床検査部)

今回各都道府県から1名が選出される中、神奈川県からは私が幸運(???)にも選出され、延べ約18時間の講習会を受講しました。

初日は厚生労働省 医政局医事課 松村先生より「チーム医療の推進について」、日臨技 宮島会長より「臨床検査技師が検査説明・相談に取り組む意義」、日本病院会 木村先生より「臨床検査技師の検査説明・相談に期待するもの」、日本看護協会 川本先生より「コミュニケーション能力」、そして最後は岩手医科大学 諏訪部先生による「検査説明・相談に関するグループディスカッション」と初日から内容の濃い講習でした。宮島会長の熱い・熱い・熱い思いが伝わってきた事と諏訪部先生によるKJ法での問題点・解決策、そして新たな課題などを導き出すグループディスカッションは、参加者47名を近郊別6グループに分け、活発な討議となり有意義なものとなりました。また、我らTeam B(私が勝手に呼称しているだけです)の問題分析で現場技師の問題に留まらず学生・学校教育にも言及したことに他グループから好評を戴きました。発表者の富山県代表・下司さん(済生会富山病院)、お疲れ様でした。



説明役の三浦氏

2日目は岩手医科大学 諏訪部先生の指導下で「検査説明の実際」のロールプレイングを実施しました。諏訪部先生が無作為にグループ内で検査説明役(不肖、三浦)と患者役(東京都代表・原田さん 永寿総合病院)を割り当て、用意された検査結果(患者6名分)が、どのグループに割り当てられるかは直前まで分からず、緊張感漂う中での役割演技体験実習でした。諏訪部先生、的確なご指導有り難うございました。

3日目は、R-CPCから病態解説、そして実践されている施設紹介、検査説明研修会実例紹介を講義して戴き全課程を修了しました。

これはあくまでも序章であり、各都道府県に戻り今回の受講者と各都道府県技師会が中心となりアプローチを開始していかなければならず、本当の意味でのSTARTはこれからです。

3年間で5000人の受講講習会を全国展開していく使命を与えられており、しかも各施設において『検査説明・相談ができる検査技師』が一人でも多くの実践できる体制を構築していかなければならないことを考えると艱難辛苦の心境です。

しかし、宮島会長が懇親会の中で話された「大きな山が動き出した」という言葉が大変印象深く心に残っております。全国の検査技師の皆さん、『見せましょう、臨床検査技師の底力を』。

山口県代表 中杉 義男 (総合病院山口赤十字病院 検査部)

今回、山口県代表として、講習会に参加させていただきました。

まず、1日目の宮島会長の講演の中で、「検査説明・相談は、検査技師の業務としてやっていく」と熱く語られていたのが印象に残りました。

2日目は、模擬演習として、検査説明の様子をビデオに撮り、再生して良い点、改善点を話し合いました。

今回、私が説明役となりましたが、早口で聞き取れない、自信が無い場面で話し方が曖昧になる、「えー」「あー」が多いなど、自分自身の問題点を知ることができました。コミュニケーションとクレーム対応のワークでは、ちょっとした言葉遣いで、クレームになってしまう事例や、自分の気質を知り、相手に合わせる対応方法などを学びました。

3日目は、検査データの読み方と、長野県で開催された講習会の実例報告がありました。実例報告の中で「まずできるところから始めていく」「いろいろな人を巻き込んでいく」との言葉が印象に残りました。

今後、企画担当者として講習会を開催することになりますが、県技師会全体の事業として取り組む必要を感じました。生化学・血液部門などの協力も得て、検査データの見方などの研修会も開き、若い技師に少しでも検査説明に興味を持って頂くようにして参りたいと思います。

質問に立つ中杉氏



～来年度(26年度)からの都道府県実施に向けて～

チーム医療推進検討委員会 委員長 奥田 勲



平成25年12月6日～8日の3日間、日臨技主催の標記講習会（共同企画：日本臨床検査医学会、後援：日本病院会、日本看護協会、チーム医療推進協議会）が、各都道府県技師会から推薦された受講者47名参加のもと東京都で行われました。

初日は、厚生労働省医政局医事課松村漠志主査のチーム医療に関する講演を含む来賓挨拶に始まり、宮島喜文会長の講演「臨床検査技師が検査説明・相談に取り組む意義」、日本病院会から青梅慶友病院長木村満先生の講演、日本看護協会から川本理恵子理事の講演、岩手医科大学の諏訪部章教授によるワークショップ、が行われました。2日目は、諏訪部教授による検査説明の実際、企業講師によるロールプレイ「接遇の基本」、虎ノ門病院の米山彰子検査部長司会による「検査説明・相談の模擬演習」（演者：安曇総合病院内田美寿子技師長、京都府立医科大学病院小森敏明技師長）、でした。3日目は、信州大学の本田孝行教授によるR-CPCの目的、実践事例から学ぶ（演者：NHO千葉医療センター永井正樹技師長、飯田市立病院實原正明科長）、そして最後に「来年度からの都道府県開催に向けて」と題して、参加者全員による総合討論を行いました。

終了後のアンケート調査では、受講者の方々から「大変中身の濃い講習会で、今後の参考になった」との声が数多く寄せられ、主催者側として大変うれしく思っているところです。

今回の講演で、宮島会長は「検査説明・相談は、私たち臨床検査技師がやって当然のことである。検査技師の業務認証拡大や現在医行為とされている検体採取の法改正、さらには検査技師の指導料獲得等を目指すうえでも、このハードルは超えていかなければならない」と熱く語られました。また宮島会長は、他の研修会の合間を縫って2日目夜の意見交換会にも顔を出され、受講者一人一人に声を掛けておられた姿が印象的でした。

宮島会長のその気持ち、受講者の皆さんにしっかりと伝わったことでしょう。

“検査説明・相談ができる技師育成”、これは間違いなく私たち臨床検査技師の未来につながる重要な取り組みです。

来年度からの都道府県毎の講習会、全国会員が心を一つに前向きに取り組んでいただきますようお願いいたします。

都道府県企画担当者（受講者）

※所属略、敬称略、順不同

小野 誠司(北海道)	佐藤 裕久(青森県)
千葉 拓也(岩手県)	氏家 和明(宮城県)
藤田 秀文(秋田県)	阿部 周一(山形県)
斎藤 市弘(福島県)	田口 洋(茨城県)
手塚 浩一(栃木県)	細見 陽子(群馬県)
岡田 茂治(埼玉県)	大野 光江(千葉県)
原田 典明(東京都)	三浦 芳典(神奈川県)
桑原 喜久男(新潟県)	下司 洋臣(富山県)
石山 進(石川県)	猿木 邦之(福井県)
河合 正行(山梨県)	宮川 恭一(長野県)
森 さゆり(岐阜県)	弘島 大輔(静岡県)
所 嘉朗(愛知県)	山本 幸治(三重県)
古谷 善澄(滋賀県)	高嶋 徹(京都府)
田畑 泰弘(大阪府)	井垣 歩(兵庫県)
嶋田 昌司(奈良県)	竹中 正人(和歌山県)
湯田 範規(鳥取県)	北尾 政光(島根県)
藤岡 克徳(岡山県)	中島 静(広島県)
中杉 義男(山口県)	岸 美佐子(徳島県)
山岡 源治(香川県)	小林 知子(愛媛県)
朝霧 正(高知県)	松下 義照(福岡県)
鬼塚 聖子(佐賀県)	安東 摩利子(長崎県)
今田 龍市(熊本県)	野中 恵美(大分県)
竹ノ内 博之(宮崎県)	有村 義輝(鹿児島県)
宮里 泰山(沖縄県)	

ワークショップ/グループ発表風景



日臨技支部学会 各地で開催！ (続報)

平成25年度後半以降の支部医学検査学会の報告となります。各学会ともに盛会に終わりました。平成26年度においては、現在の予定で9月に5支部、11月に2支部と、平成25年度と比べてより早期の開催となることも多く支部会員におかれましては、発表の準備に早めに取り掛かれるようお願い致します。

日臨技首都圏支部医学検査学会 (第2回) 報告 学会長 下田 勝二 東京都臨床検査技師会会長



平成25年度日臨技首都圏支部医学検査学会 (第2回) は、10月26日 (土)・27日 (日) の2日間の日程で、両国国技館のすぐ近くにあり、国際ファッションセンター内のKFCホールに於いて開催いたしました。

昨年度は神奈川県で関甲信支部との合同開催となりました。今年度は東京都が担当し首都圏支部として初めての単独開催となりましたが、都臨技理事を始め、学会実行・実務委員や協賛各社の方々のご協力を得て滞りなく支度が整ってきた矢先に、10月末だというのに台風27号が日本列島に接近し、開催日には関東を直撃するとの予報が出されました。そのため、直前までその対策に頭を悩ませてしまいました。なんとか前日の進路予想で関東の南海上へ大きく逸れていく予報となったため、開催を決定いたしました。もし中止となった時のことを想像すると…、本当に台風が逸れてくれて助かりました。

当日朝は台風の影響で強い雨と風が吹いていましたが、受付開始から多くの会員にお越しいただきました。その後は雨風ともに収まり、公開講演や検査健康展には会員のみならず一般の方の参加も多数お迎えすることができました。学会には1,000人を超す参加があり、盛会裏に終了することができました。

今回のテーマは「革新を恐れるな！ Innovation from Metropolitan Area」、サブテーマは「臨床検査の明日に向かって」として、技術革新のうねりが続く臨床検査の中で既存の技術を継承しつつ新しい技術を吸収し、新たな価値を創造すること、それを日本の中心である首都圏から発信しようという思いが込められています。

特別講演では、京都大学iPS研究所の江藤先生に「再生医療の最前線 -iPS細胞がなぜノーベル賞に値するのか?-」というテーマでご講演いただき、臨床検査技師に深く関わってくるiPS細胞からの血小板・赤血球製剤の開発についてのお話や、iPS細胞の誕生前のお話など興味深い内容でした。

会場のすぐ隣には江戸東京博物館がありますが、ここは「失われつつある江戸東京の歴史遺産を守るとともに、東京の歴史と文化を振り返ることによって未来の東京を考える博物館」ということで、今回の学会テーマにぴったりでした。そこで館長の竹内誠先生に公開講演をお願いしました。テーマは「近代における大相撲の革新」で、大相撲は古来から続く伝統を重んじる国技と思われがちですが、実は思い切った革新を行っていたこと

を話していただきました。もう一つの公開講演は、地元の企業であり国民の健康増進に取り組んでいるライオン(株)のオーラルケアマイスターの平野正徳先生に「全身の健康はお口から」と題して口腔ケアのお話をいただきました。このテーマに関連して、会場のエントランスホールで開催した検査健康展では、東京都歯科衛生士会の方々にご協力いただき口腔ケア指導を行いました。

一般演題は学生演題5題を含む109題が集まり、シンポジウムは5つの研究班が趣向を凝らした内容を企画し、多くの方が熱心に参加されていました。共催セミナーでは、ランチョンセミナー11題、イブニングセミナー2題を開催することができ、機器試薬展示では22社の賛助会員から出展がありました。

都臨技では今年度より学生会員の制度を創設しました。この制度は学生の時から検査技師会の活動に興味を持ってもらい、検査技師会を身近に感じてもらうことで卒業後に正会員としての入会を促進していくことを目的としています。今学会でも多くの学生会員の参加を見込み、学生を考慮した教育講演を企画し、東京大学病院の宿谷賢一技師に講師を依頼しました。テーマは「教科書では学べない尿検査」で、解りやすく楽しい講演は学生たちにも好評でした。

懇親会では、隅田川甚句会の皆さんに大相撲に縁のある相撲甚句・相撲太鼓を演じていただきました。

今回、初めて首都圏支部単独の開催となりましたが、多くの方々のご支援・ご協力により無事開催できたことを心より感謝申し上げます。

日臨技近畿支部医学検査学会 (第53回) 報告 学会長 谷口 晴信 福井県臨床検査技師会代表理事



平成25年度日臨技近畿支部医学検査学会 (第53回) は平成25年10月19日 (土)・20日 (日) の両日、フェニックスプラザ (福井市) において福井県臨床検査技師会の担当でテーマを「臨床検査が奏でるシンフォニー」として開催いたしました。

今学会は日臨技近畿支部、日本臨床検査医学会近畿支部、日本衛生検査所協会近畿支部の3団体同時開催とし、参加者はどの会場にも自由に出入りすることを可能といたしました。学会には988名 (会員・非会員・協賛企業) の参加があり、成功裏に終了いたしました。

福井県技師会企画として、全国的に有名になっている恐竜の化石について福井県立恐竜博物館総括研究員の野田芳和氏に「恐竜化石の発掘について」というテーマで、2つめは戦国時代福井で繁栄した朝倉氏の一乗谷遺

跡について福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館館長の吉岡泰英氏に「一乗谷とその医師」というテーマで講演をしていただき、多くの会員の方が聴講されました。

その他にもシンポジウムが7部門、教育セッションが5部門で開催され、教育カンファランスとして細胞診と一般検査のコラボした内容のカンファランスも行われました。ランチョンセミナーも2日間で14セミナーと多数開催する事ができました。一般演題も我々の予想を超える146題の申し込みがあり、また、企業展示にも22社の協力を得ることができました。

各会場は立ち見ができるほどの盛況となり、活発な議論が交わされ、熱気で冷房を掛ける必要になり時間が足りなくなる会場が数多くありました。さらに19日の夕刻からはチーム医療実践セミナーが開催され糖尿病・NST・ICTの各分野で午後8時30分過ぎまで熱心に討論がおこなわれました。最後に近畿支部各府県役員・会員ならびにご支援ご協力いただいた関係各位に感謝申し上げます。

日臨技中四国支部医学検査学会（第46回）報告

学会長 丹下 富士男
広島県臨床検査技師会会長



日臨技支部学会として昨年の岡山学会に続き2回目となる平成25年度日臨技中四国支部医学検査学会（第46回）を（一社）広島県臨床検査技師会の担当で平成25年11月9日（土）10日（日）の2日間、広島市の広島国際会議場にて開催しました。

一般演題195題、シンポジウム等特別演題も49題あり盛り沢山の内容で、学会には約1800名（会員1321名＋賛助会員・学生等を含）の参加があり盛会裡に終了することができました。

臨床検査医学は目覚しく進歩を遂げていますが、我々臨床検査技師には常に新しい知識や技術の研鑽が求められていることから、メインテーマを「変革の時、原点を見つめて未来へ」、サブテーマを～匠の伝承～を掲げ今一度、臨床検査の原点を見つめて基盤となる部分は残して未来に向けて新たな視点を考えて行く機会とし、また、世代を越えて伝えるべき知識や技術をどのように伝承し発展させるべきかを中四国支部会員の皆さんと考え、議論いたしました。

一般市民に公開した市民公開講座では、桃山時代を代表する武将茶人の一人で上田宗箇を流祖として連綿この広島の地に受け継がれてきた武家茶である上田宗箇流家元 上田宗問先生に「日本人の美意識と武将茶人」と題し

てご講演していただき、広島歴史と文化、ならびに日本人の美の精神を提唱していただきました。

教育講演は3題企画し、まずは大阪大学大学院医学系研究科先端移植基盤医療学科特任研究員津田秀年先生に「再生医療はどこまで進んでいるのか？-臓器再生と細胞治療-」、続いて広島大学大学院医歯薬保健学研究院疫学・疾病制御学教授 田中純子先生には「ウィルス肝炎の疫学と対策最前線」、そして山陽女子短期大学名誉教授安松弘光先生には「チャレンジ！-臨床検査技師としてアメリカ留学を体験して-」と何れも興味深い内容で多くの会員が熱心に耳を傾けていました。

その他にも初めて企画したスイーツセミナーでは多くの会員を釘付けにして行列のできた機器・試薬展示には厳しい経済状況にも関わらず31社のメーカーに、また恒例となりましたランチョンセミナーには11社のメーカーにご協力をいただいて開催いたしました。

会員相互の親睦や賛助会員との情報交換を図ることを目的とした懇親会では、企画から全て次世代を担ってくれるだろう若い会員に託して開催し、フレッシュな司会、今年度日臨技に入会した会員によるダンス、そして呉地区のバンド演奏等手作りの懇親会が繰り広げられて学会の疲れが吹っ飛ばすような楽しい宴で出席された方々には大変満足をしていただけたものと思います。

また、日臨技企画として開催した中四国ブロック血液センター見学や、中電病院、山陽女子短期大学、広島国際大学のご協力のもと開催した「高校生のための職業紹介」はとても好評で充実した企画であったように思います。

各方面の皆様方に日臨技会員の「おもてなしの心」での学会企画・運営を高く評価していただきましたが、改めまして本学会開催にあたりご支援・ご協力を賜りました中四国支部会員ならびに賛助会員、関係各位の皆様方に心より感謝申し上げます。

日臨技中部圏支部医学検査学会（第52回）報告

学会長 小林 圭二
三重県臨床検査技師会会長

平成25年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第52回）が、さわやかで快晴な晩秋の中、11月23日（土）、24日（日）の2日間の日程で、三重県総合文化センターにおいて開催されました。



学会には1000名を越える参加者が参集しまして、盛会裏に終了することができました。

日臨技新施行体制により関連医療団体との折衝が積極的に取り組まれ、様々な新しい事業や業務拡大が推進されており、私共臨床検査技師として、チーム医療はもちろんこれまで以上に他職種との連携ならびに相互扶助により存在価値を高めていく必要性が増してきたと思われれます。そういった状況より、メインテーマを「明日の医療の担い手となる臨床検査技師」とし、サブテーマに「多様な医療へどう関わっていくか?」としまして、メインシンポジウムにも各県での様々な取り組みをご紹介いただきました。公開講演には、地元のホンダ鈴鹿工場に赴任され、ホンダF1エンジンの開発を携わられ、現在ではN-ONE、N-BOX、N-ワゴンの開発総責任者である本田技術研究所執行役員の浅木泰昭氏に「小さい車の可能性」のご講演をお願いしましたが、開発の視点が車椅子や主婦の我が子の送り迎えの自転車といったユーザー視点からの利便性から新しい発想と特許をとられており、私共医療人にも今後通用するものを感じました。特別講演に三重大学院医学系研究科検査医学講座の登壇教授に「ポストゲノム時代の臨床検査 ～先制医療と個別化医療における役割～」のテーマにて、非常に解りやすくご講演いただき、保険診療との仕組みと兼ね合いや、コンビニ遺伝子検査における精度の状況から、今後私共技師会としてしっかり取り組む必要性が示唆され驚いた次第です。昨年の全国学会でも好評であった生理部門イベントとして超音波シンポジウム「血管を診る（全身血管から腫瘍血管まで）」を実施しましたが今回も午前から満席となりました。部門別研究班企画は、7部門によるシンポジウム・パネルディスカッション2題・教育講演3題・ケースカンファレンスと盛り沢山に企画しましたが、多数の参加者で満足した次第です。

演題数は113演題で、機器試薬展示は30社のご参加をいただきました。2日目にはN-BOXとN-ONEの2台が祝祭広場に展示され、公開講演後には多くの会員が車の中を体験しておられました。三臨技では、賛助会員は私共会員と同格であるとの考えから、昨年の全国学会でも一般演題発表の場を提供させていただきました。そこで今回は、新企画「カフェ・スイーツセミナー」として1日目の午後2時から4時に、賛助会員による発表の場（各10分）を企画したところ、11社のエントリーがあり、朝の200枚の予約券配布には長蛇の列となり、その効果として展示会場も終日満杯の大状況で、会員・賛助会員共に喜んでいただきました。学会懇親会はホテルグリーンパーク津6Fで行われましたが、宮島会長をはじめ前葉津市長と登壇教授も臨席され、「うましくに 三重」のグルメを大勢の参加者に堪能していただきました。中盤に市立四日市病院マンドリンククラブ（放射線スタッフ）による演奏が、心地よいバックグラウンドとなり、歓談の輪を広げていただきました。

本学会開催にご協力いただきました関係各位をはじめ、中部圏支部各県会長ならびに会員と賛助会員の皆様方に心より感謝申し上げます。

【先駆的臨床検査技術研修会報告】

第1回

遺伝子・染色体研修会

今年から日臨技が遺伝子・染色体、超音波、病理等のような、先駆的な取り組みが要求される検査において、検査知識や技術を普及させるための先駆的臨床検査技術研修会を実施しております。

平成25年11月22
(金)～11月24日

(日)に日臨技会館にて【先駆的臨床検査技術研修会】第1回遺伝子・染色体研修会が開催されました。テーマを「遺伝子・染色体検査の院内導入に向けて ～学びませんか！「遺伝子・染色体検査」～」とし、遺伝子・染色体検査の基本的な内容から実際の病院での遺伝子検査・染色体検査の導入から運用まで幅広い内容で開催されました。



参加者は今年働き始めた新人からもうすぐ定年という方まで幅広い年齢層。普段されている担当業務は遺伝子・染色体担当者はもちろんですが、微生物、血液、生化学など日常業務で遺伝子・染色体検査をしていない方や今後検査室に必要とされていくであろうという時代の流れを感じ取った参加者が数多くいられました。参加人数は全国から76名と当初の予定より多くの参加者での開催となりました。

参加された方は3日間、朝8時からというスケジュールにもかかわらず、皆さん真剣に研修を受けておられました。参加された方は口々に「来年も研修会を実施して欲しい」と、「3日間があつという間で、ためになり非常に楽しかった。」とおっしゃっており遺伝子検査・染色体検査研修会のニーズのたかさをうかがい知ることができました。日臨技は今後も会員が、何を必要としているかを敏感に感じ取り、ニーズに応えた研修会の企画を実施していき、少しでも日業業務・医療全般に貢献できればと考え実施していきます。この遺伝子・染色体の研修会は今年も実施していく予定です。皆様の参加を心よりお待ちしております。（担当執行理事 坂西 清）

参加された方は3日間、朝8時からというスケジュールにもかかわらず、皆さん真剣に研修を受けておられました。参加された方は口々に「来年も研修会を実施して欲しい」と、「3日間があつという間で、ためになり非常に楽しかった。」とおっしゃっており遺伝子検査・染色体検査研修会のニーズのたかさをうかがい知ることができました。日臨技は今後も会員が、何を必要としているかを敏感に感じ取り、ニーズに応えた研修会の企画を実施していき、少しでも日業業務・医療全般に貢献できればと考え実施していきます。この遺伝子・染色体の研修会は今年も実施していく予定です。皆様の参加を心よりお待ちしております。（担当執行理事 坂西 清）

お申込み受付中！

●先端的医学技術に関する学術講演会 『分子標的治療と遺伝子病理』

平成26年2月15日（土）

●先端的医学技術に関する学術講演会 『ファーマコゲノミクスと臨床検査』

平成26年2月16日（日）

詳しくは
JAMT
ホーム
ページで！

（編集後記） 新年あけましておめでとうございます。この一年で何をするかは人それぞれの思いがあり、その思いがとげられる様な1年にしたいものです。信念あけましておめでとう。となるように、1日1日を大切に日々前進したいものです。今年も宜しく願いいたします。

【坂西】